

個別級 単元名「ももたろう」

受容と共感で笑顔あふれる学校づくり
～ちがいを豊かさとして ともに言葉で学び続ける子の育成～

○研究テーマに迫るための日常の手立て（成果・課題）

受容と共感ができる授業づくり

音読の授業を年間通して行った。一人で暗唱する子、教師と一緒に読む子等、様々な形での音読をし、それぞれのやり方でいいんだと肯定していく雰囲気を作っていた。

成果：・最初はやらないと言っていた児童が何度も繰り返していくうちに自信をもって音読に取り組もうとするようになった。

・他の児童の音読を聞いて、私もやってみたい！という気持ちをもって、マネをしたり、自分なりに音読したりする様子が見られた。

・「話す・聞く」では、朝の会に3分間スピーチを行った。それぞれが時間内に自分の気持ちや言いたいことを伝えることが自信となっている。

課題：・スピーチや音読はそれぞれのやり方で話しているため、正しく音読できているかは微妙である。ただし、楽しみながら、音読をすることも重視しつつ、正しく読むことにも挑戦していきたい。

○本単元について（成果・課題）

集団での国語科の新設と教育課程の編成

今までの個別級は生活単元学習が多く、国語、算数は個別学習を多く取り入れていた。指導要領改訂に伴い、教科を重視した授業が求められる。特に知的部門を中心として、普段、国語を交流級で受けていない低学年の児童の個別級での集団での国語の授業の在り方を考えていった。

成果：・個別級の教員一人一人が国語科について考えようとする事ができた。

- ・国語「書く」の授業が中心であったが、「読む」の授業について考えることができた。

課題：・今回は知的部門の児童が情緒級の児童の読む様子を見て、（友達の様子を見て）マネをしたり、自分の読むに変えていったりすることを目的としたが、集団での国語科は児童の実態に合っていないとの意見をもらった。

- ・知的部門の児童は教科書を使うことが難しいと感じ、今回、実践書を参考に、「ももたろう」の授業を行ったが、教科書通りの指導をすべきとの意見をいただいた。

